

会報第24号の発刊に寄せて

——本年度活動の反省もこめて——



会長 K/T

平成27年度会報（第24号）をお届けします。当会本年度山行のまとめ（広報部、12月現在）によると、一斉、月例、一般山行の実施回数、参加者数のいずれも前年比でプラスの◎評価になったということです。それというのも各山行や会行事の計画・実施・まとめに当り、各部局、各幹事、会員の皆さんの協力の賜と御礼申し上げます。

だが問題が全くなかったわけではなく、次のような課題も残されております。

- 参加者不足で中止が11コース、計画の約5分の1にもなり大変残念なことです。しかし一方では、中止するにはしのびずジャンボタクシーに切替えたり、敢えて割高な2人乗務を避けて面倒な宿泊にしたなど、労を厭わず努めるケースもありました。来年度では、会員の皆さんの一層の積極的参加を期待します。
- 全山行を通じて保険適用となる傷害事故が皆無だったことは大変喜ばしいことでした。しかし山行中に、装備や体調の不具合が出るようなケースもあり、各参加者が事前にしっかりと学習し対応をした上で参加する必要があります。案内書、総会資料、ハイク通信ほか、情報は十分あるはずですが、実際場面では、L、SLはもちろん、その山行の参加者の皆さんが臨機応変の協力を出し合い、それぞれ大事に至らなかったのは見事でした。
- 年度途中、副会長、総務企画部長という当会の要の方々を立て続けに体調不良に陥り、一時は会の存続そのものも論議するところとなりました。そのため、部長会を2度にわたって開き、また幹事会でも詰めて、結局は「入会者も徐々に増え、会への期待も高まっているので会を潰すわけにはいかない」という意識が高まり、皆さんが協力し合って、会を盛り立ててゆくことになりました。
- その一方、山歩きを愛好し楽しむ会としての「新津ハイキングクラブ」の秩序を緩め、その構成員である会員としての在り方、振る舞いに疑問を投げかけるケースも出てきたことは大変残念なことです。このことについては、どう自分自身を見つめてゆくことができるか、それが今後の課題です。いずれにせよ、会員の皆さんが会員で在る以上、会を壊す方向でなく、会を盛り立てる方向で意識を高め、みんなが気持ちよく参加できる会にしてゆきたいものです。

山歩きやウォーキングが健康に良い、認知症予防にもなるということで益々盛んになる昨今です。一方山と言えば、高い山、低い山、四季折々にそれぞれなりに魅力があり、発見があります。無理をせず程ほどの所にとどめるのもよし、グレードを一歩上げて挑戦するもよしです。いずれにせよ、新津ハイキングクラブの活動への参加を通して、ハイキングや登山に一層親しんでいこうではありませんか。